

## ペット質問箱

### フィラリアの感染予防必要？

### 高まるリスク、しっかり投薬を

**問** そろそろ、蚊が媒介する寄生虫であるフィラリアの予防の季節です。私は街中に住んでいるのですが、周りの犬友達でフィラリアに感染している犬は全くいません。それでも予防すべきでしょうか。

**答** 近年の日本では、フィラリア予防を取り巻く環境が大きく変化しています。都市部ではヒートアイ

ランド現象により気温が高く保たれ、媒介する蚊の活動期間が自然環境より長くなる傾向が明確になってきました。マンション周辺の植栽や排水設備などの環境が蚊の越冬を助ける例も指摘され、従来の5～12月より早い4月開始や、ノミ・マダニ対策と統合した薬の通年投与を推奨する動物病院が増えています。

一方、山間部や寒冷地域では依然として都市部ほどの長期活動は見られないものの、温暖化の影響で活動期間は確実に延びています。以前主流だった6～11月から、5～12月へと投薬期間が拡大しています。

このことは感染可能期間の推定データである、HDU (Heartworm Development Heat Unit=フィラリアが蚊の体内で発育できる温度条件を数値化したもの) にも表れています。例えば関東のデータでは、感染開始日が数日から1週間程度早まっており、予防開始時期が今後さらに前倒しになる可能

性も示唆されています。

こうした変化は地域差よりも年ごとの気温変動が予防期間を左右することを示しています。臨床現場では蚊の有無で判断するより、一定期間を確実に投与する方針が重視されつつあります。

ご近所でフィラリア感染犬がいな

いのは、皆さんが毎年欠かさず予防をしてくれているおかげです。蚊がより活動しやすい環境になり、感染リスクはむしろ高まっていると言えますので、今年もしっかり予防をしてください。

(山田 輝貴・県獣医師会員)

<月1回掲載します>

ペットに関する素朴な疑問や健康、飼い方についての質問をお寄せください。〒422-8670 静岡新聞社編集局「ペット質問箱」係へ。Eメール<seikatsuhoudou@shizuokaonline.com>や、右のQRコードで投稿フォームからも送信できます。全てにはお答えできず、直接回答もしかねますがご了承ください。

